



質への学生参画 - 英国の事例：
パートナー&プロデューサー

Dan Derricott
University of Lincoln

概要

- 質：何を達成しようとしているのか
- 質プロセスへの学生参画の利点
- 英国における学生参画の台頭
- 一般的な観点：パートナーとしての学生
- 代替的な観点：プロデューサーとしての学生
- 実際：質への学生参画の例
- 優れた学生参画の原則



UNIVERSITY OF
LINCOLN

- リンカン大学
起源は1861年に遡る
地元の人々の意志により2001年に設立
学生12,000 名
教員620 名、支援スタッフ 620名
ガーディアン大学ガイド2013では
120校中47位
学生満足度は上位4分の1に入る(全国学生
調査：National Student Survey)
www.lincoln.ac.uk @UniLincoln



質

何を達成しようとしているのか？

- ・ 最低限の学術水準及び調和/比較可能性を保証
- ・ 学生が、学習し、学術水準を達成するための良質な機会があることを保証
- ・ 学習機会を向上する。より良くするために常に努力する。



質保証 & 活動の向上への学生参画の利点

- 学生は、2013年に学生であることがどのようなものであるか専門的な見解をもたらす。
- 教育に関する学生の視点は教員の意見を補完する（ただし、取って代わることは無い）。
- 学生は、新しいアイデア、エネルギー、情熱、創造性をもたらす。
- 学生は、規準と想定に挑戦することを促進する。
- 学生参画は結果ではなくプロセスである。これは質の保証と向上を達成するための方法の一つである。

英国における質保証及び向上への学生参画の台頭

簡易年表

- 1980年代- 学生意見書提出の規定
- 1990年代 - HEQC（高等教育水準評議会）：学生意見書の提出はないが、学生との面会を必須とした。局地的に参画するコース代表者として学生トレーニングの開始
- 1997年 - QAA の設立
- 2002 年- 新たな機関別オーディット方式に「学生意見書」が再導入。最初の QAA職員の雇用；主要な会議の開催。
- 2002-03年 -スコットランドの教育セクターが、「向上型テーマ」の取組の主要原則として学生参画を採用。学生評価者とSPARQS（スコットランド質における学生参加支援機関）の導入。

- 2006年 - グラスゴーにおけるQAA会議では、スコットランドの全国学生ユニオン会長及びSPARQS会長から肯定的な影響について聞いている。QAA理事会は学生評価者は、英国全体で展開されるべきであると合意し、当初、6大学で試験的に実施され、全国会議へ報告された（結果は好評だった）。
- 2007年 - QAA職員の増加、QAA学生参画戦略：学生ユニオンへの支援、理事会の学生メンバー
- 2009年 - イングランド高等教育財政カウンスル（HEFCE）が、オープン・ユニバーシティの高等教育研究&情報センター（CHERI）に学生参画の状況を報告することを委託。これは、高等教育アカデミーおよび全国学生ユニオンにさらなる資源開発および学生参画の支援のためのHEFCEの資金提供のもととなった。

- 2010年 - QAA理事会が、大学が質プロセスに学生を参画させるといふ正式な期待を主張する「解説記事」文書を受け取る - その後、QAAは「QAAのすべての業務において主要な利害関係者グループとして学生を扱う。」
- 2010年 - QAA新戦略計画: 第一の目的は、QAAが学生のニーズを満たしていることを保証すること
- 2012年 - 英国高等教育のための質規範(Quality Code)が改定され、新しい章にすべての高等教育提供機関が遵守しなければならない、学生参画について期待される事項が導入された

現在の状況 - 最重要点

- 高等教育課程を提供する大学およびカレッジの主な評価（レビュー）のすべてで、評価員団の中に十分な学生メンバーがいる（学生評価者100名以上）
- 評価（レビュー）を受けている大学またはカレッジの学生は評価者のもとへ書面を送ることができ、水準及び質のすべての分野について学生からの視点を与えている
- QAA理事会には学生が2名入る
- 理事会の正式な委員会：学生諮問委員会

高等教育における学生の役割をめぐる現在の概念

パートナー vs. プロデューサー

一般的な観点：パートナーとしての学生

- 教育の受動的な消費者としての学生を否定
- 学習及び研究におけるパートナーとしての学生///
教育の変革及び質プロセスにおけるパートナーとしての学生
- 学生自身の教育における学生の積極的な役割を強調
- この立場を支える三つの視点：
 - 学術- 高等教育アカデミー
 - 学生 - 全国学生ユニオン
 - 規制者 - 高等教育質保証機構 (QAA)

学術

- 高等教育アカデミー(HEA)は、学習/研究におけるパートナーとして学生を参画させる教員を支援するための「パートナーとしての学生」プロジェクトを実行
- 研究に関与する教育を含む、非常に肯定的な教育のより積極的な形態を推進
- パートナーとしての学生のための支援を有意義なものとするために、HEAは教師育成コースを認定



学生

- 全国学生ユニオン（NUS）は、質と制度変更において学生参画を支援するために、学生ユニオンを支援する学生参画及び質ユニットを持っている
- 「パートナーシップ・マニフェスト」を2013年に公開：パートナーシップのある一定のタイプのための原理的な主張
- NUSの役員は、すべての主要なセクター機関の委員会のメンバーである。学生は全国規模で参画している



規制者

- 高等教育質保証機構(QAA)は、質保証及び向上への学生参画について英国高等教育のための質規範(Quality Code)の中の真新しい章を公表
- 高等教育提供機関が学生を教育経験の保証および向上に、個人ごと、また集団として参画させることを期待。優れた実践の指標が7つある。



代替的な観点：プロデューサーとしての学生

- 教育の受動的な消費者としての学生を否定
- ウォリック大学で考案され、リンカン大学で発展し、全学的に採択された
- 研究に従事させる教育/探求を基礎とする学習をめぐる教育を中心とした組織原理
- 政治的に本質的な起源。大学の意義とアイデンティティの危機に学者からの反応。
 - ヴァルター・ベンヤミン - 1930年代に著者はプロデューサーだと言説
 - ベルリンのフンボルト「近代」大学 - 研究 & 教育
 - 米国の再考案委員会。研究と教育の衝突
 - 1962年学生講義運動：学生どころではない学生

- プロデューサーとしての学生は、大学の意義を述べ直し、教育と研究との間、並びに教師と学生間の関係を再構築することを求める
- 実際に、カリキュラムの設計や新コースの承認/コースの再承認に積極的に学生が参画してきた
- カリキュラムを超えた原則の拡大：大学のプロデューサーとしての学生
- <http://studentasproducer.lincoln.ac.uk>

パートナー vs. プロデューサー？

実際には

質への学生参画の例

学生代表

- 大学間で共通
- コース、学科レベルで学生たちによって選出
- 通常、学生ユニオンによって支援
- 質に対する責任を持っているコースまたは学科の委員会のメンバー
- 学生代表者によって提示された意見は、質モニタリングおよび評価プロセスにおいて考慮



変革推進者としての学生

- エクセター大学
- 学生が彼らの教育・学習経験の一部を変更するためのプロジェクトを先導する
- 自然系科目のためのエッセイ執筆ガイドの作成
- 言語授業料を聴取して1年生を支援するための2年生と3年生の体制の開発
- 学術的評価とフィードバックの実施を改善
- 講義や他の教育に新しい技術を統合



サポート部門

- ・ リンカン大学
- ・ 学生参画戦略
- ・ すべてのサポート部門が学生参画計画と学生参画擁護者を持つ
- ・ 人事 - 職員任命委員会の一員の学生
- ・ 施設 - 建築物設計及び改修に関わる学生
- ・ 図書館 - 新しい導入プロセスを設計



学生評価者

- 高等教育質保証機構(QAA)
- 全国的に募集され、熱心なトレーニングを受けた学生の大規模なグループ。100名を超える。
- 学生経験に特に焦点を当てた評価委員会の正式メンバー
- 同額の報酬が支払われる
- 異なった視点から、様々な質問をする。学生に焦点をあてて。



学生参画の原則

高等教育アカデミー（1）

- ・ 確実性: パートナーとして働く学生（及びほかのもの）にとって明確な根拠がある場合、各パートナーは計画や前もって仕事を引き受けることに関わり合いがある
- ・ 包括性：協力業務において参画を防げる障壁がないこと
- ・ 学生「のために」または「について」ではなく、学生「と」話すこと
- ・ 現体制やプロセスへ単に協力業務をはめ込むのではなく、根本的な変化を切り開くこと
- ・ 協力業務の必要性が関係するすべての当事者によって認められ、同意されること
- ・ 共有の目的、価値及び原則の進展
- ・ お互いの認識を理解するために時間を割き、どのようにそれが協力関係に影響を与えるか

学生参画の原則

高等教育アカデミー（２）

- ・ 共同の意思決定と説明責任の取り決め
- ・ パートナーが行う差異や独自の貢献の認識の価値の同等性
- ・ 権力関係の承認：問題と指針の所有権がどこにあるか、また、業務の結果がどのように使用されるかということに関して明確であること。既存の不平等を肯定する構造や慣習に異議を唱える覚悟があること。
- ・ 信頼関係を構築するために時間を割くこと
- ・ リスクテイキングを促進する環境を築くこと
- ・ パートナーシップ業務を支援するための資源を識別すること
- ・ 評価と学習に共有される義務を包含すること
- ・ パートナーシップ業務に成功した成果や取組を評価し、宣伝すること



質への学生参画 - 英国の事例：
パートナー&プロデューサー

Dan Derricott
University of Lincoln